



東町布袋車 大幕復元新調
ご奉賛のお願い



東町布袋車 大幕復元新調ご奉賛のお願い

有松天満社文嶺講では、2019年より東町布袋車の刺繍大幕の復元新調を行っております。

東町布袋車は、延宝3年（1675年）以前から名古屋の下玉屋町より若宮祭で曳き出されていた山車を、明治24年（1891年）に橋東町（現・東町）の長老が購入して以降、今日まで大切に曳き継がれております。

この山車の四面を飾る刺繍大幕は、文化9年（1812年）に製作されたもので、経年劣化による色褪せや刺繍のほつれが目立っており、幕の耐久年数を大幅に超えているため、修復も困難な状況にありました。

歴史的にも美術工芸的にも価値のある重要な文化財として後世に伝え続けるため、文化庁ならびに名古屋市によるご指導の下、有松天満社文嶺講が約10年の歳月にわたる刺繍大幕の復元新調を進めております。

布袋車の歴史、有松祭礼の歴史ならびに尾張名古屋の祭礼文化を共に後世に伝え続けていくためにも、この度の東町布袋車大幕復元新調事業に対し、皆々様の厚いご支援・ご奉賛を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

東町布袋車について



建造年不明

からくり人形：布袋和尚

文字書き唐子人形・蓮台を廻す唐子人形・磨振り童子

※いずれも二代目・玉屋庄兵衛によるもので、歴代玉屋庄兵衛が手がけたからくり人形の中で最古のものと云われています。

刺繍大幕について

大幕は文化9年（1812年）の製作で、下絵はのちに尾張藩御用絵師となる山本梅逸による大変貴重なものです。大幕には四霊（応龍・鳳凰・麒麟・靈亀）が金糸の刺繍でほどこされており、後面幕には尾張藩右筆である丹羽盤桓子の筆で詩文が書かれ、製作当初より尾張名古屋の祭礼文化に於いて重厚で華やかな姿を披露してまいりました。

また、文久年代（1861年頃）には、名古屋城入城の際に尾張藩14代藩主である徳川慶勝公がご上覧になりました（慶勝公撮影の写真が残っております）。

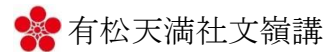


向かって左側より、麒麟・鳳凰・応龍・靈龜



後面幕

令和8年1月吉日



大幕復元新調事業 概要

事業期間 | 2019～2029年を予定

総費用 | 4,950万円

事業工程 | 本事業では、大幕を四面に分け、計4期（約10年）にわたり復元新調を進めております。

第Ⅰ期（2019～2022年）	正面幕（鳳凰と応龍の尾・雷文図）	※2022年春 完成
第Ⅱ期（2022～2023年）	後面幕（詩文・雷文図）	※2023年春 完成
第Ⅲ期（2023～2026年）	左面幕（応龍と霊亀・雷文図）	※2026年夏 完成
第Ⅳ期（2026～2029年）	右面幕（麒麟と鳳凰の尾・雷文図）	

本事業は、文化庁・名古屋市からの補助金ならびに皆様からのご寄付で運営を進めております。

つきましては、皆様からの絶大なるご奉賛を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

1口 5,000円より

ご奉賛の返礼について

2万円以上のご奉賛のお方は、御芳名を銘板へ掲載させていただきます。

お申し込み方法

ご奉賛いただけるお方は、この用紙を下記担当者へ FAX にて送付の後、「有松天満社文嶺講 大幕支援金」口座までお振り込み願います。

FAX 送付先 | 052-621-1723 (本田雅己)

振込先 | 金融機関名 碧海信用金庫
支店名 有松支店
預金種目 普通口座
口座番号 6065211
口座名義 有松天満社文嶺講 大幕支援金

お問い合わせ先

有松天満社文嶺講 本田雅己 090-3837-9728

◇◇◇ ご奉賛者様ご情報 ◇◇◇

申込日： 年 月 日

御芳名		電話番号	
フリガナ			
ご住所			
〒 -			
口数		金額	

※ご提供いただきました個人情報は、大幕復元新調事業でのみ利用させていただきます。